

バイオフィリックデザイン小委員会 第5回 議事録

- 5 A. 日時 2006年1月23日 月曜日 17:30~20:45
- B. 場所 建築会館 202会議室
- 10 C. 出席者 秋田真範(首都大東京 須永研) 宇野朋子(東京文化財研) 木村建一(国際人間環境研)
小玉祐一郎(神戸芸術工科大) 菅原正則(宮城教育大) 鈴木康司(OM計画)
須永修通(首都大東京) 深澤たまき(首都大東京 須永研) 横田歩(首都大東京 須永研)
: 9名(敬称略、50音順)
- 15 D. 資料 5-0 バイオフィリックデザイン小委員会 第5回 議事次第
5-1 バイオフィリックデザイン小委員会 第4回 議事録案/菅原
5-2 - 2006年熱シンポジウム企画案/須永
5-2 - 熱環境運営委員会での20051105熱シンポ企画案に対する意見/須永
5-3 2006熱シンポ企画案/小玉
20 5-4 熱シンポ企画案(20060123)/須永
5-5 斉藤(札幌市立高専)のコメント(熱シンポ案)/斉藤
5-6 ユーラシア大陸における伝統的住宅における暖房設備の特徴と気候特性に関する研究
/菅原
- E. 審議事項
- 25 1) 前回議事録確認
前回議事録案(資料5-1)は、承認された。
- 30 2) PLEA2005(ベイルート)報告
木村委員から、標記について報告があり、これに関連して次のような意見交換があった。

(木村)参加者が150名前後と例年より少なかった。治安に対しての警戒の現われかと思うが、
きちんと調べた所それほど危険でないことが分かったので、行ってみたら大丈夫だった。
PLEA委員の交代時期が近づいてきていて、現在小玉先生の後任を検討中とのことであった。
- 35 3) ユーラシア大陸における伝統的住宅における暖房設備の特徴と気候特性に関する研究
菅原委員から、標記(資料5-6)について説明があり、関連して次のような意見交換があった。

(木村)さっき紹介したレバノンの hypocaust(床暖房)跡はローマ時代のもの。イギリスのバース
でも hypocaust を見たことがある。つまり、分離・複合過程の最後の方にオンドルが配置し
てあったが、発生の時期は相当古いと考えてよい。暖炉よりも古いかも知れない。中国のカ
ンが朝鮮半島に伝わってオンドルになったと言われている。
40 カッヘル(陶板)・オーフェンはゲーテハウスで見たことがあるが、方々(ドイツ、ハンガ
リー)にある。高級なものは焚き口が壁の後ろにあり装飾がきれいだが、庶民のものでは焚
き口が室内側にあるものもありそれが暖炉の原型と聞いている。
45 暖炉は直火が見えるので輻射熱が強いのにに対し、オーフェンは表面温度が低くても放熱部分
が大きいので部屋全体が暖まるのでは。こういうことを踏まえて、どれだけの暖房能力があ
るか大雑把でも良いから規模や時代背景も考慮して検討すると良い。
(小玉)オンドルも朝鮮半島の北部と南部ではぜんぜん違うものになっている。南部では囲炉裏と併

用している。

(木村) イタリア、スペイン、ポルトガルは南欧として分類すべき。イギリスは北欧に近い。

(鈴木) 型と型の間の位置づけと思われるが、クッキングストーブを見たことがある。

(木村) 湯たんぽはどのように分類されるか。ペチカは暖かい。表面に金属板が張ってある。

5 (鈴木) 青森の十和田市に「縄文??」という名前の、オンドルを作っている会社がある。

(小玉) 日本ではなぜオンドルが普及しないのか。

(菅原) 地震の多さもあるが、一番の理由は湿気であろう。

(木村) 韓国の冬は厳しいのに対し、日本の家は夏を旨としている。そのため、韓国は暖房設備を必要なものと考え、日本ではあまり必要性を感じないので建築要素としては省略しがち。暖房設備は余計なコストと考えているのでは？

10

(小玉) コタツの起源は分かっているか？分かたら知りたい。

(木村) いろんなものをいっぺんに分析しているから分析が難しくなっている。コタツならコタツだけに絞る方がいい。暖房の種類の結びつきも根拠が良く分からない。ただ、カッヘルオーフエンから暖炉が発生したのは確からしい。あるいは、暖地でも冬はあるので、暖地と寒地を分けるとか。

15

(小玉) それこそ、PLEAのメンバーにアンケートをとったら、各国の状況がすぐ分かるのでは？

(木村) これからは分析ではなく、どうデザインに役立つかをテーマにすべき。そのためには Architect に発表してもらうのが良いが、日本からは特に少ない。まだ締め切りに間に合うと思うので、共同研究者の月舘先生に発表してもらってはどうか。

20

4) 来年度の熱シンポ企画

須永主査から、標記(資料5-2、5-4)について説明があった。また、小玉委員から標記(資料5-3)について説明があった。続いて、斉藤委員(菅原委員代読)から、標記(資料5-5)について説明があった。これに関して、次のような意見交換があった。

25

(木村) 今回沖縄で開催することになり、国際性が感じられるようになってきた。亜熱帯というテーマに設定すると、沖縄近隣からの関心と呼ぶことができるのでは？
建築家としては、仙田満先生をお招きして「建築倫理」「環境倫理」のテーマで基調講演をお願いしては？

30

(小玉) 「沖縄はトロピカルだけではない」という堤先生からの意見があったので、「沖縄=亜熱帯」を打ち出してよいものかどうか迷っている。

(深澤) 小玉先生案の中で興味あるのは「4) 気候風土とバイオクリマティックデザイン」。沖縄という土地ではいつもと違った見方ができると思う。

(秋田) 名護市庁舎が興味ある。現物を見ながら話を聞くと実感が沸く。

35

(横田) 「3) 環境教育とバイオクリマティックデザイン」。エコスクールでどのような教育がなされているか興味ある。

(小玉) 学校エコ改修事業は、環境省主導で、身近な学校の改修を進めながら技術と教育を同時に考えるというもの。善養寺さん、中村勉さんがキーパーソン。

40

(宇野) 「1) 快適さとバイオクリマティックデザイン」が重要であると思うが、今日の提案にはたくさんテーマがあり過ぎて、総合討論をどのように持って行くか、イメージできない。

(須永) 総合討論はいつも、まとまらないままに終わる。名護市庁舎のように具体例があると、議論の焦点が定まりやすいかも知れない。

45

(小玉) 要素技術を紹介するというような内容もいいと思うが、他の方法として、ディベートの生じやすいクリティカルなテーマに絞ると議論しやすいので、そういうことを討論に持ち込むのもよい。

(木村・小玉) 名護市庁舎をコンペにして、審査員に榎、清家、ともう一人選ぶことを仕組んだ原さんという人がいる。その原さんが、使っている市役所の話聞くのも良いのでは？実はいろんな問題点があって、この建物が嫌いな人もいる。

(木村)初め、会議室だけエアコンがあり、他の部屋はオープンにするというコンセプトだったが、現在はすべてエアコンが入っている。

(小玉)せっかく風の通り道に沿って部屋が配置してあるのだが、今はどういう風に使っているかわからない。

5 (宇野)名護市庁舎を題材に、各セッションで

(小玉)設計者はそういう場にあまり来たがらないものだが、当時、名護市庁舎を担当した象設計集団の設計者(モリヤマさん、富田さん)は既に亡くなっている。今、北海道にマチヤマさんがいる。台湾にも象設計集団の出身者がいる。加藤義夫さんもいる。セイコウ大学のリンクケンという人もいる。マレーシアやインドネシアにもいる。

10 (小玉)具体的にどういう人をスピーカーに選ぶかは、各セッションの主題解説者に任せてはどうか。

その後、協議の結果、主題解説者は次のように選ばれた。

1) 快適さとバイオクリマティックデザイン: 齊藤委員

2) ライフスタイルとバイオクリマティックデザイン: 堤純一郎先生

15 3) 環境教育とバイオクリマティックデザイン: 宿谷委員

4) 気候風土とバイオクリマティックデザイン: 菅原委員

5) ハイテクとバイオクリマティックデザイン: 小泉委員

F. 次回委員会予定 日時: 3月7日(火) 18:00~20:00

20 場所: 建築会館会議室

内容: 岡本委員から「日本設計の環境建築の紹介」についての話題提供、
来年度熱シンポジウムの企画など

内容は次のものを順次取り上げる。

25 1. 鈴木(大)委員から北総研建物について

2. 環境設備で入りにくい部分についてのディスカッション(廣谷+鈴木(信)、野沢?)

3. 鈴木委員、武山委員からOMソーラー協会本社について

4. 田中直樹氏「蓄熱材利用の混構造住宅(静戸の家:日本建築学会東北建築賞作品奨励賞)」